



IUFRO-J NEWS

No. 100 (2010.7)

IUFRO-J NEWS 100号を迎えて

IUFRO-J 議長 鈴木和夫

IUFRO-J NEWSは、昭和52年1月に第1号が発行されて、本号で100号を迎えます。前99号には、IUFRO-J News発行の経緯が、当時のIUFRO-J議長上村 武林試場長の名で掲載されています。IUFRO-J News第1号はたった4ページの情報提供でしたが、「あとがき」には、「IUFRO-JニュースNo.1をお届けすることになりました。これから5年間の長丁場です。メンバー一同スクラムを組んで行かなければなりません。目下、メンバー表を作成中です。」と、5年後に控えた京都におけるユフロ世界大会開催に向けたIUFRO-J事務局の意気込みが感じられます。昭和56年ユフロ世界大会終了後にリーゼ前会長（西ドイツ）から送られてきたメッセージには、アジアで最初に開催された第17回ユフロ世界大会について、次のように綴られています。「(略) ユフロ-Jニュースの誌面をお借りして、あのよう

に素晴らしい大会を実現して下さいたいして、われわれ参加者一同およびユフロ・ファミリーからの心からの謝意を表したいと思います。参加者全員が、科学者として、1人の人間として喜び、満たされた、あのような大会を準備し運営するために、どれだけの努力をされたかは想像を絶するものがあります。エクスカージョンにも同じように強い感銘を受けました。専門的な視点と、過去から現在までの日本文化にふれることが巧みに組み合わせられており、しかも参加者に寛裕と相互理解のための時間もとられていました。本大会はまさ

に素晴らしく完璧な出来ばえでした。(略)」(IUFRO-J NEWS No.17から抜粋)。30年ほど前に開催された第17回ユフロ世界大会を記憶している方々は少なくなっ

てまいりましたが、当時のIUFRO-J登録機関と会員を現在と比較すると、27機関746名から25機関660名(A会員)へと推移して、会員数は減少傾向にあります。IUFRO-J(国際森林研究機関連合-日本委員会)の目的は、「国際森林研究機関連合(IUFRO)の目的に沿って、その事業に協力するため、国内の林業・林産業に関連する研究機関の相互連携を図るとともに、IUFROに関連する諸活動に貢献することを目的とする」とあります。現在、IUFRO情報についてはITの発達にともな

って以前とは状況が様変わりしましたが、国際的に先端化・細分化していく森林情報を提供し相互連携を図ることがIUFRO-Jの役割と考えています。去る4月4日には、IUFRO-J平成22年度機関代表者会議が開催され、IUFRO-Jの活動の見直しが議題に取り上げられました。そして、今年度検討することとされました。今後とも、ユフロとIUFRO-Jの活動についてご理解とご協力を頂き、「何をしてもらうのか」のみならず、「何ができるのか」というIUFRO-J発足の初心に立ち返り、多くの方々が情報を共有して国際的な森林・林業研究活動を展開されることをお願いする次第です。今年8月には、アジアで第3回目となるユフロ世界大会がソウルで開催されます。多くの成果とご報告をお待ちします。

IUFRO-J 平成 22 年度機関代表会議

平成 22 年 4 月 4 日に筑波大学において、標記会議が開催されました。A 会員、B 会員合計 19 機関代表、3 名の IUFRO 役員の方々に出席いただき、鈴木和夫議長の司会で議事が進められました。議事に先立って、鈴木議長より、IUFRO-J が 30 年ほど前の IUFRO 京都大会に向けて設立されたこと、その活動を見直すべき時期にあることが述べられました。次に、中静透 IUFRO 理事より、2009 年 10 月にアルゼンチンで開催された理事会の概要報告がありました（同理事会報告は、IUFRO J News 99 号に掲載されています）。以下では、代表会議での審議、承認された議題の概要を報告します。なお会議開催に際して筑波大学の第 121 回日本森林学会大会運営委員会の皆様にお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

I. 平成 21 年度会務報告

1. 一般会計

1) IUFRO-J News 発行

No.97 (2009.7) : IUFRO Division 4 International Conference 「Extending Forest Inventory and Monitoring over Space and Time (森林資源調査とモニタリングの時空間的拡張)」に参加して・第 18 回ユフロ世界大会のご案内・IUFRO-J 平成 21 年度機関代表会議・IUFRO-J の意味

No.98 (2009.11) : IUFRO 国際研究集会「多目的森林管理—気候変動時代における持続可能性の戦略—」の開催・IUFRO Conference on Gender and Natural Resources, S6.08.02 「森林カリキュラムにおけるジェンダー教育」に参加して・アジア太平洋地域林業研究機関連合 (APAFRI) 第 5 回総会報告・ルイス・アピオラーザ博士の日本訪問と講演会

No.99 (2010.3) : 2009 年 IUFRO 理事会報告・IUFRO 「Asia and the Pacific Forest Products Workshop-Green Technologies and Products for Climate Change Mitigation and Adaptation」に参加して・IUFRO 「11th International IUFRO Wood Drying Conference-Recent Advances in the Field of Wood Drying, Skelleftea Sweden 2010」に参加して・

第 18 回 IUFRO 世界大会への参加登録・事務局からのお知らせ・IUFRO-J News 発行の経緯・国際森林研究機関連合—日本委員会会則

会誌送付会員（平成 22 年 3 月 18 日現在）の現状

A 会員 : 25 機関 660 名 (会員数前年度比 : 21 人減)

B 会員 : 15 機関 (会員数前年度比 : 2 機関減, 2 人減)

C 会員 : 28 名 (会員数前年度比 : 3 人減)

賛助会員 : なし

2) 理事会出席助成

なし

3) IUFRO 関連研究集会事務局・参加助成

事務局助成 (20 万円)

龍原 哲 (東京大学) 20 万円—多目的森林管理に関する国際研究集会

参加

該当者なし

4) IUFRO-J eNews

平成 19 年 9 月より配信を開始した。

当初の配信先は、AB 会員の代表・連絡員、C 会員のうち、事務局がメールアドレスを把握している人。AB 会員機関からの連絡に基づき、それぞれの機関に所属する会員を配信先に追加。

H21 年度は配信せず。

現在は事務局主事のメールアドレスのみから配信できるように設定。

5) 長期滞納会員の解消

複数年にわたり連絡が取れない方 (2 名) を退会とした。

6) 新規会員の勧誘

IUFRO-J News を通じて勧誘依頼を継続した。

2. 平成 21 年度役員

議長 鈴木 和夫 (森林総研)

監事 佐々 朋幸 (林 振)

阿部 恭久 (日本大学)

幹事 福山 研二 (森林総研)

田淵 隆一 (森林総研)

主事 藤間 剛 (森林総研)

II. 平成 21 年度会計決算報告

1. 一般会計 (平成 22 年 3 月 18 日現在)

【収入】

科目	予算	決算	備考
前年度繰越金	1,353,336	1,353,336	
会費			
A 会員	681,000	630,000	
B 会員	97,000	61,000	
C 会員	30,000	24,000	
前年度未収分	74,000	45,000	H20 年度までの会費を H21 年度に払った団体、 個人
前納分	1,000	3,000	H22 年度以降の会費を H21 年度に払った団体・ 個人
雑収入	1,000	148	利息
単年度収入小計	884,000	763,148	
合計	2,237,336	2,116,484	

【支出】

科目	予算	決算	備考
情報活動費	351,500	308,589	J-News 印刷 (No.97, 98, 99) 送料・通信費
内訳			
J-News 97 印刷	100,000	87,958	
J-News 98 印刷	100,000	96,463	
J-News 99 印刷	100,000	86,488	
J-News 送料	50,000	36,690	12,770 (No.97), 11,860 (No.98), 12,060 (No.99)
通信費	1,500	990	封筒, 切手代
会議費	30,000	26,265	平成 21 年度機関代表 会議 (京都大学)
旅費	300,000	0	理事会出席助成
雑費	10,000	8,660	1,680 (振り込み手数料) 6,980 (会費受領時送金 手数料)
予備費・助成	200,000	200,000	事務局助成 (多目的森林管理)
単年度支出小計	891,500	543,514	
次年度繰越	1,345,836	1,572,970	
合計	2,237,336	2,116,484	

III. 平成 21 年度監査報告

平成 21 年度監査報告

平成 21 年度 IUFRO-J 事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成 22 年 3 月 25 日

IUFRO-J 監事

財団法人林業科学技術振興所 つくば支所長
佐々 朋幸 印

平成 21 年度監査報告

平成 21 年度 IUFRO-J 事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成 22 年 3 月 29 日

IUFRO-J 監事

日本大学 生物資源科学部

阿部 恭久 印

IV. 平成 22 年度事業計画案

1. 一般会計事業

1) IUFRO-J News 発行

番号 (予定時期) : 掲載記事に関する事務局案
No.100 (2010.7) : 集会報告, 機関代表会議報告
No.101 (2010.11) : 世界大会報告
No.102 (2011.3) : 集会報告
各 1000 部印刷し、会員配布

IUFRO および IUFRO-J の目的に添った内容で、会員相互に広く共有すべき記事を掲載したいと考えています。積極的に事務局にご相談ください。

2) 理事会出席助成

IUFRO 役員の理事会出席に対し、単年度一名あたり 15 万円を上限とする。

2010 年は世界大会にあわせ 8 月 20・21 日にソウルで開催予定。

3) IUFRO 研究集會事務局・参加助成

参加助成 : 応募なし

事務局助成 : 応募なし

助成事業の概要メモ

- 助成申請は随時受け付けている。
- 12月末で集計し、選考委員会に諮り、助成対象を決定。
- 応募の詳細は資料4参照。
- 具体的内容
「IUFRO 関連集会 事務局・参加」年間総額 50万円程度
事務局：20万円/件、
参加：10万円/件目途（発表は海外に限る、ただし世界大会を含まない。）
選考委員会（現在、5名で構成）で決定。
応募資格：会費を納入している会員に限る。
助成を受けた者のオブリゲーション：J-Newsでの報告。

4) 研究集会の後援

- 研究集会がIUFRO-Jの目的に沿い、後援内容が経費の支出をとまなわない広報支援を行う。主催者からの申請にもとづいて、事務局で後援を決定、実施し機関代表会議に報告する。

5) IUFRO-J 組織体制、活動の見直し（後述）

V. 平成22年度予算案

予算案立案の基本的な考え方

- 単年度収支に心がける。

1. 一般会計予算案

【収入】

科目	予算	備考
前年度繰越金	1,572,970	
会費 A 会員	660,000	660名
B 会員	85,000	12口+4機関(25名)
C 会員	25,000	28名中3名がH22年度会費を前納
21年度未収分	82,000	3/18現在
次年度前納	3,000	
雑収入	1,000	利息
単年度収入小計	856,000	
合計	2,428,970	

【支出】

科目	予算	備考
情報活動費	351,500	J-News印刷 (No.97, 98, 99) 送料・通信費
内訳 J-News 100印刷	100,000	
J-News 101印刷	100,000	
J-News 102印刷	100,000	
J-News 送料	50,000	
通信費	1,500	封筒、切手代等
会議費	30,000	平成22年度機関代表会議(筑波大学)
旅費	0	
雑費	10,000	振り込み手数料、送金手数料
助成金	0	
単年度支出小計	391,500	
次年度繰越	2,037,470	
合計	2,428,970	

VI. 役員選出、承認

平成22年度役員候補

役員	氏名	所属	区分	(任期)	[役職による指定]
議長	鈴木 和夫	森林総研	現	(H19年4月～)	[理事長]
監事	佐々 朋幸	林 振	現	(H19年4月～)	
	阿部 恭久	日本大学		(H21年4月～)	
幹事	石塚 森吉	森林総研	新	(H22年4月～)	[国際研究担当 COD]
	後藤 忠男	森林総研	新	(H22年4月～)	[国際連携推進拠点長]
主事	藤間 剛	森林総研	現	(H18年4月～)	[国際研究推進室長]

議長、幹事および監事は機関代表会議で選出、主事は議長が委嘱。(会則第11条)

任期は2年、再任は妨げない。(会則第12条)

[参考]

IUFRO 役員 (2006～2010)

IUFRO 国際評議員会日本代表

代 表 鈴木 和夫 (森林総研)

代表代理 中静 透 (東北大学)

IUFRO 役員 (2006～2010)

理事 General member

中静 透 (東北大学)

第3部会 Deputy Coordinator

酒井 秀夫 (東京大学)

第4部会 Deputy Coordinator

吉本 敦 (統計数理研究所)

第7部会 Deputy Coordinator

鎌田 直人 (東京大学)

VII. 主な討議事項

IUFRO-J 組織体制, 活動の見直し

設立から30年を経て、IUFRO および IUFRO-J を取り巻く状況は大きく変わりました。特に IUFRO-J の主たる目的である情報交換の推進および連絡調整は、紙媒体の郵送から電子メールやウェブサイトの利用に大きく様変わりしてきています。その一方、IUFRO-J では会員数の漸減が続いており、機関代表および連絡員から現在の活動内容では IUFRO-J の意義を会員に説明できないという指摘をうけています。このような情勢のもと、事務局には参加の意義を見いだせないという理由で退会する方を止めるすべがありません。このようなことから、平成22年度中に IUFRO-J の組織体制、活動の見直しを行いたいとの提案が見直しに関するアンケート案とともに、事務局からなされました。

この提案に対して、「研究集会参加助成はありがたい物であったが、近年は旅費が潤沢になったことから重要性は低くなっている。」「研究集会の事務局助成はありがたかった。一人1000円の年会費の意義は大きい。」「IUFRO-J の事務局助成は細かい縛りが無いためありがたい。」「日本国内の IUFRO 参画機関の意見をまとめるという IUFRO-J のような機関は他国にはほとんどないことから、IUFRO から評価されている。」「設立時の状況や目的から離れた活動を検討する時期である。特に日本人学生のレベルを上げるためのサポートを実施すればどうか。」などという意見が出されました。

これらの意見を踏まえ、次ページの活動に関するアンケートを実施することになりました。

IUFRO-J の活動の見直しについて

IUFRO-J 事務局

発足から 30 年以上を経て IUFRO および IUFRO-J を取り巻く状況は大きく変わりました。とくに IUFRO-J の主たる目的である情報交換の推進および連絡調整は、紙媒体の郵送から電子メールやウェブサイトの利用に大きく様変わりしています。その一方、IUFRO-J では会員数の漸減が続いており、現在の活動内容では IUFRO-J の意義を会員に説明できないという指摘があります。事務局には、参加の意義を見いだせないという理由で退会する方を止めるすべがありません。このようなことから、IUFRO-J 平成 22 年度中に会員の皆様の意見を伺い活動の見直しを実施することになりました。

実施スケジュール

- 1) 平成 22 年 4 月 平成 22 年度機関代表会議で見直しの実施を承認
欠席機関への連絡、見直し項目に関する意見募集。
- 2) 平成 22 年 7 月 J-News No. 100 見直しアンケートの送付
平成 22 年 9 月 アンケート締め切り（取り纏めは各機関）
- 3) 平成 22 年 11 月 J-News No. 101、一次結果公表、意見募集
- 4) 平成 23 年 3 月 J-News No. 102、IUFRO-J 活動案の提示
- 5) 平成 23 年 3 月 平成 23 年度機関代表会議で活動案を審議、決定

注：右のアンケートへの回答については、機関ごとに取り纏めをお願いします。

IUFRO-J の活動に対する意見調査票

- 1) 機関代表会議
 - a) 開催する。開催時期 _____
 - b) 開催しない。代表会議にかわる IUFRO-J 意志決定方法 _____
- 2) IUFRO-J News の発行（1977 年～）
 - a) 発行しない。
 - b) 発行する。年当たり _____ 回発行
冊子体、電子版
- 3) メーリングリスト（2007 年～）
 - a) 発行しない。
 - b) 発行する。
- 4) 研究集会助成
日本国内に事務局において開催される IUFRO 国際研究集会事務局
 - a) 継続しない。
 - b) 継続する。国外で開催される IUFRO 国際研究集会への参加に対する助成
 - a) 継続しない。
 - b) 継続する。・理事会出席助成
IUFRO 役員の理事会出席に対し、単年度一名あたり 15 万円を上限とする。
 - a) 継続しない。
 - b) 継続する。・研究集会の後援
後援内容が経費の支出をともなわない広報支援を行う。
 - a) 継続しない。
 - b) 継続する。・会費
 - a) 現在のまま継続する。
 - b) 活動内容の見直し結果を踏まえ、あり方を検討する。

注：IUFRO-J 会則、研究集会助成実施要領については IUFRO-J News 99 号と 95 号をご参照下さい。

IUFRO-J 研究集会事務局・参加助成実績

IUFRO-J 事務局

過去 10 年間の IUFRO 研究集会事務局・参加助成を整理しました。IUFRO-J 活動の見直す際の参考にしていただければ幸いです。

助成区分	開催年月	集 会 名	開 催 地	報 告 掲載号
参加	2000 年 8 月	第 21 回ユフロ世界大会	マレーシア	No.71
事務局	2001 年 7 月	7th International IUFRO Wood Drying Conference	つくば	No.70
参加	2002 年 6 月	第 4 回国際森林植生管理会議	フランス	No.76
事務局	2002 年 9 月	適切な撫育・集材作業が必要な育成林業の役割に関する国際セミナー	東京大学	No.77
事務局	2002 年 10 月	インタープリバンド 2002	長野県松本市	No.78
参加	2003 年 5 月	IUFRO 第 3 部会中間役員会議及び第 2 回国際林業工学会議	スウェーデン	No.79
事務局	2003 年 9 月	IUFRO 研究集会「OAK2003, Japan」	つくば/日光市	No.80
事務局	2003 年 9 月	森林昆虫の個体群動態と宿主の影響	石川県金沢市	No.81
参加	2004 年 5 月	第 7 回国際ブナ・シンポジウム	テヘラン	No.83
事務局	2004 年 8 月	森林の社会機能に関する IUFRO 研究グループの合同会議	北海道大学	No.84
事務局	2004 年 10 月	次世代のための森林の役割—森林資源管理の哲学と技術	宇都宮大学	No.92
事務局	2004 年 11 月	第 3 回木材表面処理国際シンポジウム	京都	No.84
参加	2005 年 3 月	熱帯林のエコシステム保全のための適切な林業技術に対する相乗的アプローチに関する国際セミナー	日本	No.85
事務局	2005 年 9 月	ゴール形成節足動物の生物多様性	京都	No.89
事務局	2005 年 12 月	メコン川などの大陸河川流域を対象とする森林環境に関する国際ワークショップ	プノンペン	No.87
事務局	2006 年 9 月	インタープリバンド 2006 国際シンポジウム「土石流、崩壊、地すべり災害の軽減」	新潟大学	No.91
参加	2007 年 8 月	林木の根株腐朽病に関する国際集会	カリフォルニア大学	No.92
参加	2007 年 9 月	「カラマツ属の育種と遺伝資源」の国際シンポジウム	カナダケベック	No.92
事務局	2008 年 6 月	ユフロ第 3 部会全体会議—天然資源利用に向けて環境的に健全な技術を探る—	札幌コンベンションセンター	No.94
事務局	2008 年 8 月	森林計画学会 2008 年度夏季台日合同国際シンポジウム「多目的・長期的な森林の管理計画の樹立に向けて」	出羽庄内国際フォーラム (山形県鶴岡市)	No.95
事務局	2008 年 9 月	第 8 回国際ブナシンポジウム	大沼国際セミナーハウス (北海道七飯町)	No.95
事務局	2008 年 10 月	第 6 回 IUFRO 異齡林研究会ワークショップ静岡大会：複雑構造をめざす森林育成技術とその実行可能性：森林生態系の多目的機能と持続可能性のためのデザイン手法	静岡 B ネスト	No.96
事務局	2009 年 9 月	IUFRO 国際研究集会「多目的森林管理—気候変動時代における持続可能性の戦略—」	朱鷺メッセ (新潟)	No.98

第23回 IUFRO 世界大会サイドイベントのお知らせ

森林総合研究所国際連携推進拠点 IUFRO サイドイベント委員会事務局

森林総合研究所は、2010年8月23日から28日に、韓国のソウルで開催される IUFRO 世界大会において、公開セミナーとブース展示によるサイドイベントを開催します。IUFRO 世界大会に参加される皆様のご来場をお待ちしています。

公開セミナー：“Forestry Researches for Global Environment—FFPRI’s Challenges Toward Climate Change, Sustainable Forest Management, Biodiversity Conservation and Timber Utilization—”

日 時：平成 22 年 8 月 24 日（火）18：30-20：30
場 所：IUFRO 大会会場 COEX 内、Room 318C
(50 席)

プログラム

開 会 18：30

開会挨拶

講 演 18：40-20：20

テーマ1：気候変動 REDD+ へ向けた森林総研の取り組み

講演者：松本光朗

テーマ2：生物多様性保全

内 容：COP10 への取り組み等

講演者：小泉 透

テーマ3：林業

内 容：林業の国際比較（ヨーロッパ、北米、カナダ）

講演者：駒木貴彰

テーマ4：木材利用

内 容：ITTO プロジェクト / 木質バイオマス利用

講演者：山本幸一

閉会挨拶

閉 会 20：30（事務局）

展示ブース（ポスター展示・スライドショー）

展示期間・場所

展示期間：8月23日～28日

場 所：IUFRO 大会会場 COEX 内森林総研ブース

ポスター展示

次のテーマのポスターを、期間を分けて展示します。

8月23-24日

地球温暖化の緩和：REDD+ に向けた森林総研の取り組み、REDD 研究開発センターの紹介

生物多様性保全：CBD-COP10 に向けた取り組み

持続的林業：林業政策の国際比較

木材利用：ITTO 小径材利用プロジェクトへの貢献

8月25-26日

炭素動態

南米アマゾンの森林における炭素動態の広域評価

東アジア森林生態系炭素収支観測ネットワーク

シベリア永久凍土帯のカラマツ林における炭素収支

8月27-28日

植林 CDM と生物多様性

カンボジアメコン流域における水循環変動

中国におけるマツノザイセンチュウ抵抗性育種

国際林業研究センター（CIFOR）との連携

スライドショー

森林総研の主要な研究テーマについて、スライドショーで紹介いたします。

IUFRO-J News No. 100 平成 22 年 7 月 20 日

国際森林研究機関連合 - 日本委員会事務局

〒305-8687 茨城県つくば市松の里1

森林総合研究所 国際連携推進拠点

TEL 029-829-8327, 8328

iufro-j@ffpri.affrc.go.jp

〔編集・発行〕